

人文書・歴史書 ご担当者 様

有志舎の新刊です。2019年6月下旬刊行

加賀藩の明治維新

—新しい藩研究の視座 政治意思決定と「藩公議」—

宮下和幸 著

A5判・ハードカバー・394ページ 本体価格 6,600円

「雄藩」「日和見藩」という枠組み自体を問い直す！

維新以後の言説やラベリングに惑わされず、幕末政治における藩というもののあり方を史料から着実に再構成。藩の個別事例にとどまる事なく、藩研究から新しい明治維新史の全体像構築を目指す挑戦。

(目次)

序章 幕末維新期の藩をどう論じるか
第一部 藩の政治過程における政治意思決定の様相
第一章 文久・元治期における加賀藩の藩是と「藩論」
第二章 慶応末期加賀藩における政治過程と藩是・「藩論」
第三章 明治初年加賀藩の政治過程と職制改革の特質
第四章 明治初年の加賀藩における人材登用
第二部 政策分析からみる組織と軍事
第五章 幕末期における加賀藩上層部の体制と京都詰
第六章 幕末期加賀藩における藩上層部の相克
第七章 加賀藩銃卒制度の成立・展開と動員の論理
第八章 幕末期加賀藩軍制改革と戊辰戦争への動員
終章 藩研究の可能性

〈著者紹介〉

宮下和幸 (みやした かずゆき) : 1975年生まれ、金沢市立玉川図書館近世史料館学芸員、明治維新史専攻

～版元から～ 北陸の大藩である加賀藩は、幕末政局において目立った動きを見せずに明治維新を迎えたとみなされ、加賀藩＝「日和見」とのラベリングがなされてきました。しかし、それは正当な評価なのでしょうか。本書は、加賀藩における政治意思決定のあり方や京都の政局への対応、さらに藩組織の改編や軍制改革、「西洋流」の受容などを明らかにし、藩の側から明治維新という変革の意義を積極的に追究していきます。数ある藩研究の一事例にとどまらず、新しい藩研究から明治維新史を切り開く挑戦です。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	加賀藩の明治維新 —新しい藩研究の視座 政治意思決定と「藩公議」— 宮下和幸 著	日本史 (明治維新)
	ご担当	A5判・ハードカバー、394ページ 本体価格 6,600円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN978-4-908672-31-6 C3021	

ご注文は 有志舎 担当：永滝 (ナガタキ) まで FAX:03-5929-7352

当社商品の取扱取次はトーハン・JRC・八木書店ですが、日販・大阪屋ほか、いずれの取次でも上記取次経由で送品します。なお、JRCからも同じ注文書が重複して送られた場合は、この弊社あての注文書だけをご返信ください。